



受験サプリ

# 学校評価で顕在化した課題 「家庭学習」強化のため九州初の法人導入

— 明光学園中学校・高校(福岡・私立) —

取材・文／丸山佳子



右から、  
法人事務局長  
戸塚幹栄氏  
進路指導部長  
前川修一先生

### School Data

創立1952年／普通科  
生徒数 女子349人(中学110人・高校239人)  
進路状況(2013年度)／大学進学68.1％・短大進学7.2％・  
専攻進学14.5％・就職1.4％・その他8.7％  
福岡県大牟田市倉永170  
TEL 0944-58-0907  
URL <http://meiko.ed.jp/>

## ■受験サプリの活用法

### ●校内の「進路通信」で活用法を促進



生徒、保護者向けの「進路通信」に「受験サプリ」導入の記事を掲載。ボランティア制度なども紹介し、活用を促進している。

### ●コンピュータ室で毎日の自習に活用

毎日「受験サプリ」を活用している「ソフィアコース」の3年生たち。「視聴時間が40時間を越えたので、もうすぐボランティア協力もできるのうれしいです」(後列左・武藤真裕美さん)、「受験前なのでセンター試験の過去問が役立っています」(前列左・猿渡史佳さん)、「自分のペースで勉強できるので、モチベーションが上がります」(前列右・今村さくらさん)



「いろいろなレベルの講座があるので、得意な英語の読解と文法は先取りして勉強し、苦手な古文は、基礎をしっかり復習するように使っています」(ソフィアコース1年・小代莉乃さん)

### ●生徒の質問に答える学習プロムナード

職員室に質問に来る生徒が多いことから、職員室前の廊下各所に白板とテーブルを置き、質問できるブースを設けた「学習プロムナード」。「今後は、『受験サプリ』の疑問点にも答えられる場になりたい」と発案者の戸塚さん。



### ●「受験サプリ」で海外ボランティア

同校では、母体であるカトリック・カノッサ修道女会主催のフィリピンボランティアに毎年参加。写真は、同校卒業生を含む今年の訪問団。在校生に向けての報告会では、現地の子どもの様子を報告しながら、「受験サプリ」視聴による寄付への呼びかけもあり、生徒たちがボランティア制度に興味をもつきっかけになったという。



## 家庭学習でも動画講義を。生徒の希望を叶えた「受験サプリ」

カトリックの精神に基づいた全人格的教育と自立した女性の育成をモットーとする明光学園は、この10年、大幅な学校改革で国立大学や難関私大への進学率を倍増させてきた。2007年にハイレベルな授業を行う中高一貫教育として「ソフィアコース」を開始。以降、難関大学文系を目指す「選抜英語コース」、キャリア教育に力を入れ、幅広い進路選択が可能な「総合進学コース」、「総合音楽コース」、今年度は「総合美術コース」を開設し、単に上位大進学を目指すだけでなく、キャリア教育と並行した、生徒の進路希望を叶える学習・進学指導に力を入れている。

「学校改革に取り組みきつかけは、少子化による生徒数の減少です。そこで当校では、1クラス20人前後にし、教師が生徒一人ひとりと向き合い、具体的な進路を設計できるキャリア教育へと転換を図りました。その結果、『ソフィアコース』では、

ハイレベルな先取り授業を行うことで生徒の学力が伸び、「選抜英語コース」の生徒たちも、数々の英語スピーチコンテストで入賞を果たすなど、大きな成果が出てきました」  
6年前から改革に取り組んできた進路指導部長の前川修一先生はそう語る。きめ細かい改革のために、生徒・保護者・教師への学校評価アンケートも毎年実施。そこから見えてきた昨年の課題が、「家庭学習の不足であったという」。「生徒からは、家庭学習でも『授業中の板書以外の、説明をもう一度聞きたい』という声が多かった。その対策を考えていたときに目にしたのが、『受験サプリ』でした。あらゆる科目の講座が動画で、しかもレベル別に用意されているので、苦手な教科を基礎から学び直し、弱い部分をピンポイント復習できる。部活が忙しくて放課後に学校で自習ができない生徒の家庭学習にも役立ちます。また、九州地区で法人導入するのは当校が初めてであり、近隣の学校との差別化を図るためにも良いPRになると考えました。この

導入で新聞社からの取材を受け、反響がありました」と前川先生。  
**視聴時間でボランティアに貢献やる気を刺激するツールに**  
導入は今年4月から。高校1年生には全額学校負担、2、3年生の希望者には一部自己負担(月額300円)で提供している。また、「受験サプリ」の視聴時間(目標50時間以上)に合わせて学校が生徒に報奨金を出し、この報奨金をフィリピンの貧しい子どもたちに就学資金として寄付する制度も行っている。  
「ボランティア制度に関しては、『自分たちが勉強することで、誰かの役に立つことがうれしい』と、生徒たちからも大変好評です。ただし、無償提供した1年生よりも、自己負担がある2、3年生のほうが『受験サプリ』を熱心に活用している点が、導入1年目の反省点。改善を加え、より生徒が使いやすいようにしていくことが今後の課題です」と、法人事務局長の戸塚幹栄さん。